



えどまえ うみ まな わ
江戸前の海 学びの環づくり
瓦版 第14号



東京海洋大学 江戸前ESD協議会 〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学海洋科学部

江戸前みなと塾

江戸前みなと塾に見た希望

師田 彰子 (全国内水面漁業協同組合連合会)

平成23年3月11日。東日本大震災が起きました。翌日は、みなと塾開講の予定でした。新たな開講に向け期待と緊張に気を引き締めていたその矢先に起きた未曾有の大災害でした。開講は延期され、伝えられる被害の大きさに胸を痛め居たたまれない日々を過ごすうちにも、4月2日に第1回みなと塾は開催されました。

みなと塾は、2部から成り、第Ⅰ部ではプランの模索、第Ⅱ部ではそれらを元にしたプランの実行という、参加される方々の手作り感あふれる画期的な企画だったと思います。

みなと塾の第Ⅰ部では、4回の予定が震災の影響で3回に再構成されましたが、知識の共有・理解の共有を得た受講生の皆さんによる熱気あふれる話し合いの末、最終回にはどれも興味深いテーマが抽出されました。そのなかで、震災の体験からこれまで東京湾についてはあまり意識されなかった「防災」という新たな視点も加わったのは大切なことだと思ひ到りました。自然の力に畏敬の念を抱くことは自然とともにある私たちにとって当然のことでありながら、永く置き去りにしてきたものです。

第Ⅱ部は10月から始まり、第Ⅰ部の内容を踏まえて、東京湾の歴史やかつての海苔漁業、現在も行われているアナゴ漁について学びました。東京湾の現在を、船で繰出して実際に海上で見聞したり、アナゴの生態やその漁業について学び、そして江戸前アナゴを丸ごと味わうことができました。こうして見て・聴いて・感じた東京湾について、最終回では様々な考えや意見を出し合い、これからの東京湾について語りあいました。「みなと塾を広げよう」の様なこうした共有の場の継続、「ブランド化」による親しめる東京湾や東京湾での漁業の継続を望む声が多くあり、また、それらを実現するための資金調達案といったものまで出されました。

仕事から、私は河川を通して海を見ています。高度経済成長期に次々と造られた河口堰は海と川のつながりを絶ち、淡水と海水が混じり合う多様な環境を作り出していた汽水域を減らし、そこに棲んでいた生き物たちの生息場は失われました。一方で、河川にダムや堰を造ることで、上流から沿岸への有機物や土砂の供給を減少させました。干潟は痩せていき、海と川を行き来する生き物(代表的なものではアユやウナギなど)には大きな障害となりました。河川とのつながりや沿岸の浄化機能、海苔漁業による栄養塩類の回収も、江戸前の海を持続させる重要な役割でした。

みなと塾を終えて、東京湾で育まれる海の幸は、みなと塾の憧れであり、希望なのだと思います。人口の増加や社会の変化に伴い東京湾に付加された機能を、東京湾が私たちにもたらす恵みと、どのように関係づけていけるのか。それらを模索するなかで、地域住民などコミュニティのちからは大きな推進力になると思います。みなと塾が進むに連れ、スタッフも含め参加者全員が、各々学び成長した様に感じました。私自身も得られた成果と課題を糧として、次につなぎ活かしたいと思っています。

師田 彰子 (もろた あきこ)

東京水産大学出身。全国内水面漁業協同組合連合会に勤務。海が大好きで、現在は河川を通して海を見ています。2009年から、東京海洋大学江戸前ESD協議会の活動に関わらせていただき、江戸前マイスター(初級)講座、江戸前ESDしながら塾、江戸前みなと塾と受講生の皆様とともに歩んでいます。水産学博士。



江戸前みなと塾



第Ⅰ部 学びのデザイン—アクションリサーチをめざして

川辺 みどり (東京海洋大学・海洋政策文化学科・准教授)

江戸前ESDしながわ塾の宿題

「江戸前みなと塾」(以後、みなと塾)は、2011年4月から11月にかけて、「第Ⅰ部 学びのデザイン」を3回、「第Ⅱ部 学びのアクション」を4回、計7回開催されました。主催は東京海洋大学江戸前ESD協議会(以下、江戸前ESD)、港区芝浦港南地区総合支所協働推進課(以下、総合支所)、江戸前みなと塾実行委員会です。

この前年に開講した「江戸前ESDしながわ塾」(以下、しながわ塾;瓦版第13号をご覧ください)の終了後、後援いただいた総合支所へ報告書を提出したところ、協働の可能性を探りましょう、とご提案をいただき、数人で集まって話し合いをしたことが、みなと塾開催のきっかけでした。ここで、港区では、総合支所ができたときから、区民とともに自分たちの地域の魅力を高め課題を解決していこうという意向で区民協働プロジェクトを進めていること、区民の方々は、講座で話を聞くだけではなく、自分たちで何かをやっていきたい、人材を育成したい、という要望をお持ちである、と伺いました。

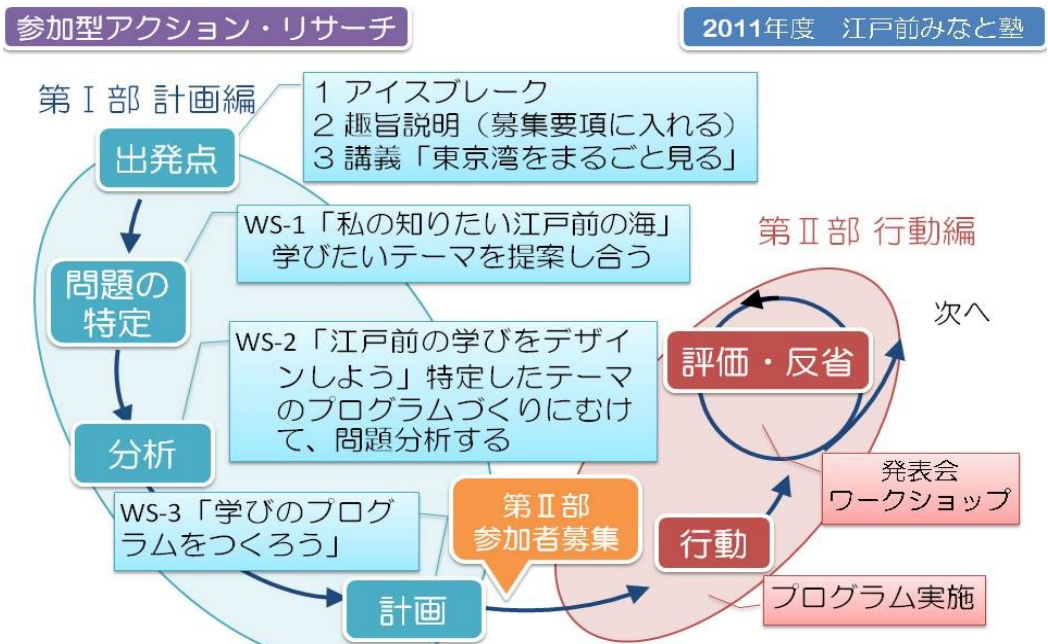
一方、江戸前ESDでは、しながわ塾のような場でつくりあげた東京湾の管理に関する提案をどうすれば政策へとつなげていけるのかを宿題として考え続けていました。さらに、江戸前ESDの活動を地域で広げていくためには、大学教員と一般の方々との間に位置するような人材が地域にあってほしい、そのためにも参加した学生を資格認定したり生涯学習講座を履修された人材を地域でリーダーとして活躍していただくシステムの構築が必要であろう、などと話し合っていました。そういうわけで、総合支所からの提案は私たちにとっても時宜を得たものでした。

2011年1月5日、総合支所のプロジェクトに参加されている芝浦港南地区区民参画メンバー11名と

総合支所の職員3名にご来学いただき、いっしょに何ができるかを相談しました。ご要望が多かったのは「水辺の提供」や「船の提供」でしたが、これらには対応がむずかしいことを率直にお伝えしました。一方、「海や魚を学ぶ」は、まさに江戸前ESDがやってきたこと、これからも広げていきたいことであったことから、みなと塾を総合支所といっしょにおこなうこととなった次第です。

みなと塾を「参加型アクションリサーチ」に

具体的にみなと塾の進め方を考え始めたとき、頭にあったのは「参加型アクションリサーチ」です。これは、地域の方々が参加して地域の問題を特定し、分析して解決策を考え、計画を実施し、評価反省したうえで、また計画を練り直すプロジェクト・サイクルに則った参加型調査手法です。しながわ塾では、江戸前ESDが前もってテーマとプログラムを準備しました。しかし、今度のみなと塾では、地域の方々ご自身で東京湾について課題を発見し、それに取り組んでいただきたいと思いました。そこで、みなと塾では、まず、「第Ⅰ部 学びのデザイン」と称して何を学ぶのか(テーマ)やどういう内容にするのか(プログラム)を考え、次の「第Ⅱ部 学



「江戸前ESD みなと塾」を参加型アクション・リサーチでおこなうと... (青が第Ⅰ部、赤が第Ⅱ部)

図1 江戸前みなと塾を参加型アクションリサーチでおこなう計画をたてました。



写真1 第I部第3回では、第II部で実施するプログラムの概要を決めました。

「学びのアクション」では、第I部でつくったプログラムを実施することとなりました(図1)。

「第I部 学びのデザイン」でプログラムを考える

「第I部 学びのデザイン」は4月2日、23日、5月14日の3回にわたって開かれました。初回では、江戸前ESDの活動を紹介し、みなと塾の趣旨をお伝えしました。そのうえで、東京湾の資源・環境とその利用についての概要を全員で共有するために、河野博・塾長が「東京湾を丸ごと見る」と称して東京湾の全体像についてお話ししました。

第2回「『学びのプログラム』をつくらうーはじめの一步」では、おおまかにプログラムづくりを始めました。まず、参加者それぞれが東京湾に関して知りたいテーマを考えます。そして、それをもとに、テーブルに分かれて、江戸前ESDのプログラムの基本である、「知識の共有と体験の共有の後に、みんなで話し合っ理解の共有をはかる」という「学びの串団子」(図2)の形でプログラム案を模造紙上につくりました。このとき各

表1 「第I部 学びのデザイン」の最終回でテーブルから提案されたプログラム案に対する会場全体での得票数(一人の持ち点は3点)。●は参加者、●はスタッフによる得票数。

順位	題名<テーマ>	●	●	計
1	現在の運河の利用と防災について知りたい	9	9	18
1	運河の水を飲んでみよう(仮)	5	13	18
3	旧東海道の海岸線を楽しもう	6	10	16
4	江戸っ子でい！うなぎじゃないよ穴子だよ。	4	11	15
5	江戸前漁師になるには	4	10	14
6	牡蠣～東京生まれ、宮城育ち～	2	8	10
7	現在の運河の水質を詳しく知ろう	6	3	9

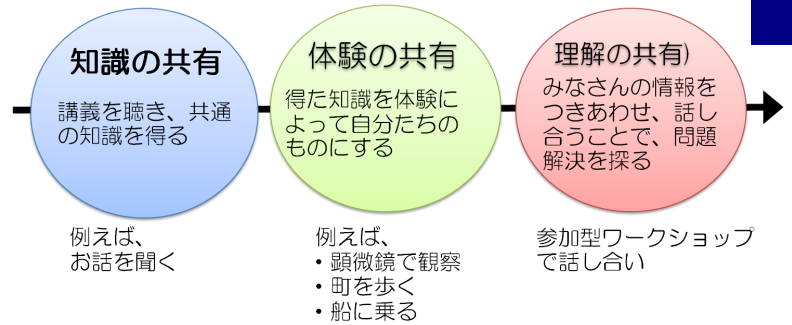


図2 江戸前ESDの学びの基本の形、通称「学びの串団子」。

テーブルから出されたテーマをまとめると、水質、生きもの、漁業、開発の4つに大きく分類できました。

第I部最終回となる第3回では、前回の話し合いで出されたテーマを二つずつ(水質と生きもの、生きものと漁業、漁業と開発、開発と水質)割り当てた4つのテーブルを設け、参加者の方々は、ご自身の関心と最も重なるテーブルに座りました(写真1)。そして、前回、作成したプログラム案を参考にしながら、具体的なプログラムを考えました。最後に、作成したプログラム案に全員で投票した結果を表1に示します。

みんなでプログラムをつくる難しさ

このように、しながわ塾の反省をふまえて、みなと塾ではプログラムづくりから地域の方々に関わっていただきました。このプロセスは、楽しかったのですが、二つの課題を思い知りました。

第一に、プログラムづくりに期待したほどの人数のお申込みがなかったことです。総合支所に港区内で募集してとりまとめいただいたところ、当初のご参加希望者は10名を切り、さびしいものでした。後に増えたのですが、「地域の課題を見つけて学びのプログラムをつくる」イメージや意義を伝える段階も必要であったかと思いました。

第二に、作成したプログラム案をそのまま「第II部 学びのアクション」に適用することの難しさです。たとえば、「運河の水を飲んでみよう」(表1)といった冒険的なものは得票数が高いにもかかわらず、健康リスクを考えると実施できませんでした。講師の手配や実施の時期を大学の事情とあわせて、あらためて全体像を考えることも必要でした。参加された方々に主体的に関わっていただくためには、全体の時間が不十分だったかな、と思います。

このように、江戸前ESDの参加型アクションリサーチへの途は始まったばかりです。

(かわべ・みどり)

江戸前みなと塾

第Ⅱ部 学びのアクションー江戸前漁業の世界を知ろう

第Ⅰ部のプログラムづくりを経て、「第Ⅱ部 学びのアクション 江戸前漁業の世界を知ろう」が10月から11月にかけて4回開かれました(表1)。漁業を大テーマとした理由は、前述のプログラム案で出されたというだけでなく、漁業の今昔を知ることで、運河の成り立ちや利用、海岸線の変容をも含めることができるだろうと考えたからです。以下に、参加者約30名の方々とともにおこなった、第1回から第4回を紹介します。(ここで紹介する内容は、ヤップミンリーさん(大学院)、青木仁美さん、伊藤美由紀さん、田中恵梨子さん、古宇田藍さん、山崎瑞樹さん、山間昇悟さん、中神芽依さん、光田有花さん(海洋政策文化学科)が作成してくれた報告書をもとにしています。報告書本体は、江戸前ESDのホームページをご覧ください。)

表1 江戸前みなと塾 第Ⅱ部 学びのアクション 江戸前漁業の世界を知ろう

第1回	10月 8日(土)	開講式、始めのワークショップ
第2回	10月22日(土)	学びのアクション1：昔の海苔漁業を知る
第3回	11月12日(土)	学びのアクション2：今のアナゴ漁を知る
第4回	11月19日(土)	結びのワークショップ、閉講式

第1回 東京湾をまるごと見る (10月8日)

第1回では、最初の趣旨説明の後、場を温めるためにアイスブレイクをおこないました。最初に同じ浮世絵のパズルを持つ方々にひとつのテーブルに集まっただき、次にテーブルで相談しながら、浮世絵に描かれた場所で最近、撮影された写真をあてていただくというゲームです(図1)。

その後、参加した全員で東京湾の概要を共有するために河野博教授のお話「東京湾をまるごと見る」を聞きました。そして最後に、ワークショップ「私はこう見る、東京湾」でテーブルで東京湾の「ここが好き、ここはちょっと、ここが知りたい」を出していただき(図2)、全員が自己紹介をしながら、テーブルで話し合った内容をご紹介いただきました(図3)。あるテーブルでの話し合いの結果をまとめたものが図4です。

ふりかえりでは、アイスブレイクが好評で、また、「グループで活動し、みんなの意見を聞いたのは有意義だった」、「今日のワークショップは思ったことが言えて楽しかった」といった感想をいただきました。



アイス・ブレイク

写真&浮世絵合わせクイズ



図1 アイスブレイクの様子。



図2 テーブルでの話し合いの様子。

東京湾のここが好き!

- 様々な船が多く、活力がある
- 海の景色、自然が好き
- 潮干狩りができる
- 都会の中にある自然
- 江戸前のおいしいものがある

東京湾のここがちょっと...

- 汚れが目につく
- 夏の海水が濁っている
- 海が近いのに遠く感じる
- 干潟の減少
- 運河の臭い

東京湾のここが知りたい!

- 水質汚染と放射線による汚染状況
- 東京湾に沈んだビニールゴミはどうなるのか
- お台場で泳げるようになるには?
- 失われた干潟は再生可能か
- 日常生活の中で水質浄化のためにできることはないのか?

図4 あるテーブルでの話し合いのまとめから。



図3 自己紹介をしてテーブルで話し合った内容を報告。

第2回 昔の海苔漁業を知る (10月22日)

第2回は東京みなとクルーズ、ねらいは、かつてさかんだった海苔漁業に想いを馳せながら、現在の東京みなとを観察し、各人がそれぞれの気づいたこと、興味をもったことを海図の上に記入して港の景観などを確認するというものでした。

当日は、参加者31名、スタッフ27名の大所帯で、天王洲ヤマツピアから(株)ジールさんの船ジーフリート号に乗りこみました。江戸前ESDの知恵袋、今井健三さん((財)日本水路協会)、小堀信幸さん(船の科学館)、藤塚悦司さん(大田区立郷土博物館)の御三方(図5)の解説を聴きながら、現在の東京港のすがたと、残された歴史の断片を堪能しました(図6~9)。

運営した立場からふりかえると、クルーズの内容が充実していただけに、乗船前にじっくり準備学習を



小堀 信幸さん
(船の科学館)

今井 健三さん
((財)日本水路協会)

藤塚 悦司さん
(大田区立郷土博物館・学芸員)

図5 講師のお三方。

おこない、また、クルーズの後にも、各自の発見や感想について十分にわかちあえるように時間をとれるように丸二日くらいのプログラムにすればよかった、との反省しきり、次に生かしたいと思います。

~1日の流れ~

①受付後、名札裏の海図記号からお仲間探しをしていただきました。同じ海図記号を持ったお仲間が全員そろってから乗船です。



海図記号



↑参加者と学生スタッフの様子



↑船内の様子

②河野塾長による前回のふりかえりとこの日の東京みなとクルーズの説明、講師の先生方のご紹介、船長さんの挨拶が終わったところで、いよいよ出港……。

③今井さんによる航路の説明の後、小堀さんと藤塚さんによる東京湾の過去と現在の違いのお話から当時の東京湾へ想いを馳せます。珍しい石垣の前や大井ふ頭中央海浜公園横も通りました！



↑船内での講義の様子



④京浜運河を下り、昭和島を眺めながら東海ふ頭公園の横を曲がり、東京湾西航路へ。天気にも恵まれていたこともあり、城南島辺りからデッキへ移動。羽田空港から飛び立った飛行機もよく見えました。

デッキで講師の方の説明を聞きました。→



⑤未完成の島、南極観測船「宗谷」、フジテレビ社屋、第三台場史蹟公園、レインボーブリッジを眺めながら豊洲大橋の下をくぐり、Uターン……。

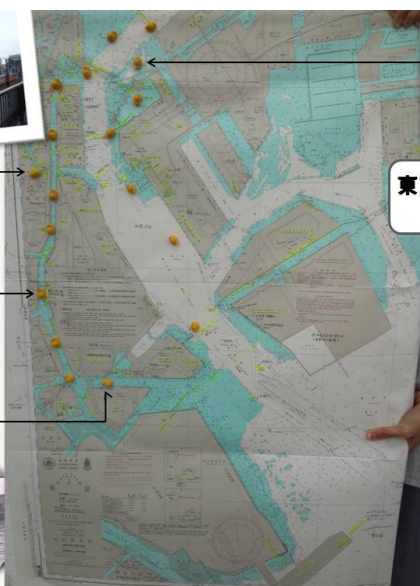


スタート & ゴール
①②⑥

③



④



東京みなとクルーズ
今回の航路



進行：師田 彰子さん
(全国内水面漁業協同組合連合会)

⑥帰りも京浜運河から東京海洋大学近くを通り、ヤマツピアに無事帰港。船内で海図記号の正解発表とわかちあい、今日のイチ押し発見、ふりかえりをしました。



図6(左上) 出港前の様子。図7、図8(右上、左下) 船上にて。図9(右下) 航路と当日進行をつとめた師田彰子さん。

第3回 今のアナゴ漁業を知る（11月12日）

第3回は、現在の代表的な江戸前漁業のひとつ、アナゴ漁について、研究者の視点と漁業者の体験から学び、参加者同士でこれからの東京湾の利用のしかたを考える基礎を共有することを目的とします。アナゴの試食もしていただくということで、会場は、総合支所さんの計らいで港区立港南中学校調理室をお借りしました。

まず、河野塾長の挨拶に始まり、講師の鈴木晴美さん（芝金杉橋の6代目江戸前漁師）、内田圭一さん（東京海洋大学海洋科学部海洋環境学科助教）、当日進行をご担当下さった梅川瑞穂さん（水産経済新聞社）の紹介がありました（図10）。

はじめに、東京湾で漁業をおこなう様子を知っていただくために、晴美さんのアナゴ漁が映っているDVDを見ました。そして、内田さんが研究者の立場から東京湾でのアナゴ、とくに資源量や生態のお話をして、続いて、晴美さんが江戸前漁師の立場からアナゴ漁についてのお話をされました。この間、参加された方々は、お話を聞いて知った「発見」と疑問に思った「質問」をポストイットに記入しました。

そして、お待ちかねのアナゴ調理です。アナゴは晴美さんが前日に獲った活アナゴ。内田さんと晴美さんが次々とアナゴを捌く様子を参加者の方々が交代で見学し（図11）、その待ち時間に各テーブルで「発見」と「質問」について話し合い、模造紙にまとめ、その内容を発表しました（図12）。

そして、わかちあいをかねて、捌いたアナゴを各テーブルで白焼きにし、山葵と塩でアツアツのところをいただきました。加えて、晴美さんが味をしみ込ませるために前日に用意して持参くださったアナゴの煮つけ、内田さんが捌いたアナゴの骨を揚げてつくった骨せんべい、さらに当日の朝に江戸川で獲られたシジミのみそ汁まで、新鮮な「江戸前」を堪能しました。

参加された方々の感想の一部を下に紹介します。

- アナゴ筒漁のビデオ、アナゴさばき、食して…体験の部分がが多く、たのしく、大変ためになりました。
- うなぎとアナゴの違いすら今までよくわからなかったもので、今日は良い勉強をしました。
- わきあいあいとしてとても楽しい会でした。食べるってこんなにも盛り上がるんですね。

最後に進行の梅川さんの号令のもと、全員で洗い物をして、食器類を片付け、掃除をし、調理室をもとの状態に戻して、第3回は終了しました。

江戸前ESDスタッフも、「食べるものすごく盛り上がる」ことを実感した回でした。



図10 本日の講師の内田圭一さん（左）、鈴木晴美さん（中央）と進行の梅川瑞穂さん（右）。



図11 お二人がアナゴを次々と捌く様子を交代で見学しました。



図12 試食の前に、お話をきいたうえでテーブルで話し合った「発見」と「質問」を発表。



図13 アナゴの試食。言葉少なく満面の笑みです。



第4回 江戸前漁業を語ろう（11月19日）

最終回は、参加者のみなさんに江戸前漁業について語っていただくのがねらいです。

まず、「第Ⅰ部 江戸前みなと塾をふりかえる」で、学生が作成したパワーポイントのまとめを使いながら、師田彰子さんと学生二人が第1回から第3回までをふりかえりました。そして、これまでに寄せられた質問に対して、今井健三さん、小堀信幸さん、鈴木晴美さんに回答いただきました(図14)。

「第Ⅱ部 テーブルで語ろう—江戸前漁業に思うこと—」では、各テーブルで今までの江戸前漁業について得たキーワードをポストイットで書いていただき、それぞれについて思うところを語っていただきました(図15)。そのうえで、江戸前漁業や東京湾のこれからについての提言を話し合い、模造紙にまとめました(図16)。

こうしてできた模造紙を会場の壁に貼りだし、休憩しながら眺めていただき、共感するものにシールを貼る形で投票しました(図17)。その結果、江戸前みなと塾からの提言として選ばれたものを表2に示します。

「第Ⅲ部 江戸前みなと塾 閉講式」では、全4回に出席された方々に修了書をお渡ししました。そして、河野塾長が全員にお礼を述べるとともに、みなと塾は総合支所がともに運営したことから、港区のレベルでは提言を活かしてもらえるように総合支所の江村信行さんと石川憲一さん(図18)に念を押し、最後に全員で写真を撮って(8頁参照)、江戸前みなと塾は閉講しました。

ふりかえりシートでいただいたコメントを紙面の都合で4つだけ、下に紹介します。

- 多くの分野から人が集まり、江戸前に対して考えることはいいことだと思う。
- 熱心な人、関心のある人が多いのに驚いた。いろんな意見、物の見方があるのに、改めて気づかされた。
- 体験、交流、素晴らしかったです。自分に何ができるか、具体的にどんな動きが起こせるか…など、考えさせられました。
- 東京湾の魚なんてって思ってたんですが、食べられるんですね。知らなかったです。ごめんなさい。

表2 江戸前みなと塾からの提言

提言	
1	様々な世代が海を身近に感じられるようなプログラムを普及させよう(みなと塾を広げよう)
2	東京港の使用料を東京湾のことを知ってもらうための研究や開発の費用に充てよう
3	「港区ブランド」を作ろう <ul style="list-style-type: none"> ➤ 新たな江戸前漁業を開発する ➤ 環境づくりを続けていく ➤ 親しめる海をつくる



図14 質問に答える講師の方々(左から鈴木晴美さん、小堀信幸さん、今井健三さん)。



図15 テーブルで江戸前漁業のキーワードから漁業や東京湾について語る。



図16 テーブルで提言をまとめる。



図17 各テーブルから出された提言を眺めて、共感するものにシールを貼りました。



図18 港区芝浦港南地区総合支所協働推進課の江村信行さん(左)と石川憲一さん(右)

御礼：江戸前みなと塾

—編集後記にかえて—

川辺 みどり

東京海洋大学 江戸前 ESD 協議会 事務局

まずは、江戸前みなと塾第Ⅰ部・第Ⅱ部に参加され、東京湾への思いを熱く語ってくださったみなさまに御礼申し上げます。今井健三さん(日本水路協会)、小堀信幸さん(船の科学館)、藤塚悦司さん(大田区郷土博物館)、鈴木晴美さん(江戸前漁師)、内田圭一さん(東京海洋大学)、師田彰子さん(全国内水面漁業協同組合連合会)、梅川瑞穂さん(水産経済新聞社)には江戸前みなと塾実行委員として運営に関わっていただきました。東京みなとクルーズでは、(株)ジールさんにさまざまな便宜をはかっていただきました。港区芝浦港南地区総合支所協働推進課のみなさまには、前準備から運営まで、本当にお世話になりました。ここに深謝申し上げます。

本講座は、科研22310029および平成23年度東京海洋大学海洋科学部学術研究奨励基金を用いて、また、港区芝浦港南地区総合支所からの運河水辺に親しむイベント業務委託事業および東京海洋大学社会貢献事業として、実施いたしました。

(かわべ・みどり)

図1 江戸前みなと塾の広報用ちらし



写真1 江戸前みなと塾の最後に全員で記念撮影。2011年11月19日、東京海洋大学8号館203教室にて。最前列に並んでいるのは、授業の一環として参加した、海洋科学部海洋政策文化学科2年生です。



江戸前ESD本の紹介：2012年2月、東京大学出版会から『江戸前の環境学 海を楽しむ・考える・学びあう12章』(川辺みどり・河野博 [編]、定価2800円)が刊行されました。東京海洋大学江戸前ESD協議会が2008年10月から2年間、日本生命財団から研究助成金をいただいて研究・活動した内容がおもに書かれています。書店でみかけたら、ぜひお手にとってご覧になって下さい。

発行 江戸前ESD瓦版編集委員会
〒108-8477 東京都港区港南4-5-7
東京海洋大学 江戸前ESD協議会 事務局内
電話/FAX 03-5463-0574 (川辺研究室)
電子メール kawabe@kaiyodai.ac.jp
ホームページ <http://www2.kaiyodai.ac.jp/~hirokun/edomae/index-esd.htm>